

市中感染症診療の考え方と進め方 第2集 IDATEN 感染症セミナー実況中継

IDATEN セミナーテキスト編集委員会 編

「感染症診療は日本の医療で遅れている分野である」というニュアンスのコメントを見たり聞いたりする人も多いのではないだろうか？ 筆者自身も感染症診療や臨床推論に関連する講演でも頻用するが、同時にこの数年で感染症診療のボトムアップが進んでいるのを実感する。その最大の貢献者はIDATEN (Infectious Diseases Association of Teaching and Education of Nippon) と言っても過言ではない。もしIDATENという言葉にピンとこない方がおられれば、HPの閲覧や周囲の若手医師に「IDATENって何？」ときかれることをお勧めする¹⁾。

さて、IDATENは過去にも複数の書籍を刊行している²⁾。それぞれ秀逸であるが、今回はセミナー実況中継「風」の体裁で、施設内・地域内での感染症診療の質向上に心強い1冊として出版された。セミナーは夏と冬に行われているが、日程やあまりの人氣で「狭き門」となっている。サマーセミナーはBasic編と位置付けられているが、「風邪」を含めてよくある感染症から、比較的稀で対応困難になりかねない疾患・状態への備え(海外渡航帰りの発熱やHIV診療、集中治療)、感染症診療の原則や小児診療、予防(ワクチン)についても網羅されおり、大変ぜいたくなセミナーである。これらがUpdateされ、カラー図表が豊富な書籍として一般公開されたことは、本当にありがたいことである。個人的には筆者自身が施設責任者としてかかわった2013年の「IDATEN Summer Seminar in 福知山」がBaseになっているのも感慨深い³⁾。

執筆者はセミナーの発起人の大野博司先生をはじめ、超豪華メンバーである。個性豊かな演者を知っている方はその人を想起しながら読むとな面白い。「臨床で悩みがちなQ & A」という項目は、全国から集まった熱意のある参加者からのセミナー終了時の生きた質問事項で、「悩んでいるのでぜひ書いてみたい!」というものばかりである。

さて、この書籍は誰に向けられたものであろうか？ 編集委員の上山伸也先生、山本舜悟先生からの「序」でも触れられている、「自分の病院の、地域の、ひいては日本の感染症診療をよくしたい」という言葉に強く共感する医療従事者向けではないだろ

うか？ 一医師が感染症診療に強くなることはもちろんだが、その施設・その地域で感染症診療の質が向上することが、IDATENメンバーの「想い」、設立趣旨に合致するのではと感じる。一例になるが、稀ながら致死性かつ緊急性が高い壊死性筋膜炎についての当院のプラクティスはIDATENサマーセミナーを境に劇的に向上した。いつか“Dish Water”を診る機会があると「備えて」おり、今や救急にかかわる医師、また切開していただく医師とも共通認識を高め、適切な診療を提供できていると自負している。また、筆者は前任地でも現在の赴任地でも、研修医・専攻医が主体となった「院内感染症勉強会」を行い、感染症診療の文化を高めている。その原案になるのがIDATENセミナーである(第1回の洛和会音羽病院で行われたセミナーにもお邪魔した)。IDATENセミナー受講は狭き門ではあり、院内勉強会を立ち上げるのも少しハードルが高いかもしれない。だが、施設内での通読は容易かつ安価であり、その効果はPricelessである。IDATENメンバーの「想い」が詰まったこの書籍が共通認識(心のよりどころ)となり、読破会や院内勉強会に発展すれば、施設内・地域での感染症診療の文化の醸成につながると確信する。ぜひ、多くの人の手に取って欲しい書籍である。

文献

- 1) IDATENのHP: <http://www.theidaten.jp/>
- 2) IDATEN セミナーテキスト編集委員会: 市中感染症診療の考え方と進め方. IDATEN 感染症セミナー. 医学書院, 2009; 病院内/免疫不全関連感染症診療の考え方と進め方. IDATEN 感染症セミナー. 医学書院, 2011.
- 3) IDATEN Summer Seminar in 福知山のBlog: <http://idatenfukuchiyama2013.blogspot.jp/>
市立福知山市民病院研究研修センター長・総合内科医長 川島篤志

B5・頁364 2015年07月
定価: 本体5,500円+税
[ISBN978-4-260-02056-5] 医学書院刊